

2 月最終日は世界希少・難治性疾患の日

Rare Disease Day

Amicus は希少・難治性疾患の治療を目指し、最前線で立ち向かい続けます

WE BELIEVE in the Fight to Remain at the Forefront of Therapies for Rare and Orphan Diseases —Amicus Belief Statement より—

Rare Disease Day(世界希少・難治性疾患の日、以下「RDD」)は、より良い診断や治療による希少・難治性疾患の患者さんの生活の質(QOL)の向上を目指して、スウェーデンで 2008 年から始まった活動です。

日本では 2010 年から 2 月最終日に全国各地でイベントが開催され、今年で 10 回目を迎えます。記念すべき RDD 日本開催 10 周年のテーマは「**きょうも、あしたも、そのさきも～the 10th anniversary of RDD Japan ～**」。これからの 10 年をともに歩んでいきたいという気持ちが含まれています。

希少疾患とは、患者数が極めて少ない**難病**の総称です。この疾患を患う患者さんは、患者数が少ないことや病気のメカニズムが複雑なことなどから以下の様な解決すべき問題を抱えています。

- 1) 診断までに時間がかかる
- 2) 治療法の開発がなかなか進まない
- 3) 疾患に関する情報が少ない
- 4) 周囲からの理解が得られない

